

海外安全対策情報（令和元年7月～9月）

1. 犯罪発生状況

管轄内の主要都市と邦人が多く居住する地域の犯罪発生状況（件数）は以下のとおりです（期間：2019年7月1日から9月30日。括弧内は前年比）。

州	都市名	殺人	性犯罪	強盗	侵入盗	車上荒らし	自動車盗
ミシガン州	デトロイト	68 (-2)	310 (-175)	692 (+63)	1765 (-215)	1233 (-527)	1807 (+120)
	ノバイ	0 (-1)	0 (±0)	0 (-1)	7 (-5)	38 (+2)	12 (+7)
	アナーバー	0 (±0)	20 (+4)	13 (+5)	76 (+35)	181 (+90)	65 (+52)
オハイオ州	ダブリン	0 (-1)	0 (±0)	2 (+1)	14 (-2)	91 (+65)	16 (+12)
	コロンバス	5 (-3)	4 (+4)	139 (+20)	200 (-47)	408 (+21)	178 (+4)
	シンシナティ	23 (+15)	71 (-30)	112 (-52)	542 (-78)	889 (+83)	420 (-4)

2. テロ事件の発生～オハイオ州デイトンにおける銃乱射事案～

(1) 8月4日（日）午前1時頃、オハイオ州デイトン市内の飲食店付近で銃乱射事案が発生、9人が亡くなり27人が負傷する惨事となりました。報道によりますと、銃撃が始まってから30秒ほどで現場近くにいた警察官により容疑者が射殺されましたが、警察官の現場到着に時間がかかっていたら被害は更に拡大していた可能性があったということです。この事案は深夜の出来事でしたが、この事案の数時間前にはテキサス州の商業施設において白昼銃乱射事案が発生し、多数の犠牲者が出ております。

(2) 近年、テロを予防することはこれまで以上に難しくなっています。テロの発生そのものは避けられないとしても、できる限りテロに巻き込まれないようにするため、また、テロに遭遇した場合でも被害を最小限にとどめるための対策が重要です。

テロの対象は、治安当局等の「ハードターゲット」であることが多いですが、レストラン、公共交通機関、イベント会場など多くの人が集まる生活の場、いわゆる「ソフトターゲット」が対象となるケースが増加しています。テロの被害に遭わないための事前対策としては、不特定多数の人が集まる場所での滞在はできるだけ短くし、不穏な動き（不審者、不審物）を察知したら、直ちにその場を離れるなどがあります。

詳細は、外務省海外安全虎の巻2020内の「テロに対する心構え（14～17ページ）」で確認してください。

海外安全虎の巻2020

<https://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pdf/toranomaki.pdf>

(3) 日本大使館や総領事館は、緊急事態発生時に在留届・たびレジ（※）の登録情報に基づいて安否確認等を行いますので登録をお願いします。

※ 海外に3ヶ月以上滞在する場合には滞在先の日本大使館または総領事館に在留届を速やかに提出することが旅券法で義務付けられております。3ヶ月未満の滞在の場合はたびレジを活用することで渡航先の安全情報などを入手することができます。

在留届・たびレジ

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>

### 3. 日系企業の安全等に関わる諸問題

デモやヘイトクライムなど対日感情の悪化に関する事案は把握していません。